

福祉有償運送の現状と提案

NPO 法人 く に た ち さ く ら 会

1. 現状

福祉有償運送を始めて約 13 年が経過。開始当初は市にも市民にも福祉有償運送の必要性の認識がほとんどなかったが、高齢化の進展とともに一般のタクシーだけでは高齢者、しょうがい者の移動ニーズを満たせなくなっている（平成 15 年 1 月 1 日現在の高齢化率 15.6%）。

移送料金は国立市内の移動は原則として片道一律 750 円。国立市外は 3 キロまで 750 円（乗降時基本介助料を含む）でそれ以降は 1 キロごとに 200 円。迎車料金は 5 キロまで無料、それ以上は 5 キロごとに 100 円。待機料金は 10 分 100 円（片道 20 キロ以上の場合には現地での待機となる）。このほか、自力で車まで来られない方には介助料金として一回 100 円～500 円。深夜料金（23 時～6 時）は市内外ともに一回 300 円。平成 26 年度の移送実績は 1,711 回、収入の合計は 1,248,800 円。

NPO 福祉有償運送を利用するにはあらかじめ会員登録が

必要だが、会員数は21名（H26年度）。利用の多い方はほぼ毎日という頻度で自家用車の代用という感じでご利用いただいている。少ない方は月に2～3回程度の利用。

さくら会による移送は一日平均して一日3～5回程度であるが、多いときには10回を超えることもある。移送は予約制だが、予約が重なったときは調整したり、移送先が同じ場合には複数乗車をお願いしたりすることで基本的にお断りすることはしない。また、深夜でも300円の追加で移送することとしているため深夜に仕事が入ることもある（さくら会では移送事業のほかに生活支援事業も行っている（15分450円））。

2. 課題

- ・本来、福祉有償運送はタクシーでカバーできないサービスを実施することになっているがその内容が明確になっていない。このためタクシーと競合することとなり運営協議会の協議を整えるのが大変。
- ・車両価格の高い乗用仕様の車両を使うこととされており、

費用の負担が重荷となっている。

- ・すでに超高齢社会を迎え、ドア to ドアの移送サービスに対する需要は今後ますます高まっていくことは確実である。裕福な高齢者はタクシーを使えばいいが、そのような方ばかりではない。

3. 提案

- ・福祉有償運送は、タクシーでカバーできないサービスを実施することとしタクシーとの棲み分けを図る。競合しないのであるから運賃もタクシーの半額程度にこだわらなくてもいいのではないか。
- ・福祉的な装備を備えた商用仕様の車両を使うことができれば経費削減に大きく寄与する。このような車両を使えるようにする。
- ・福祉有償運送の事業者が今後増えていくような環境が必要である。
- ・上記三点について、現在、国立市は多摩地域26市町村合同で開催している福祉有償運送運営協議会に参加し福祉

有償運送にかかる協議を行っているが、これを国立市単独で開催することとし、よりきめ細かいサービスを実施できるようにする。

- ・移送サービスに対するニーズをより正確、かつ確実にすくい上げるための場をもうける。

(以上)